

論文要旨

【背景】医療の高度化に伴い医療的ケアを受ける子どもは多様化しさまざまな環境で教育を受けている。我が国も特別支援教育の体制もインクルーシブ教育への転換を背景に多様で柔軟な仕組みづくりを目指している。しかし、医療的ケアを受ける子どもと養育者が多様な選択肢からどのように意思決定し子どもの学校生活の支援体制の構築を行っているかについての研究は見られない。

【目的】医療的ケアを受ける子どもとその養育者が学校生活に対し抱く思いや要望について国内外の先行研究を調査し、1. 子ども自身が学校生活に対し抱く思いや要望、2. 養育者が学校選択に至った理由についての思い、3. 養育者が在学中に学校生活に対し抱く思いや要望の3つの視点より明らかにすること。さらにそれらを踏まえ、子どもと養育者にとって必要な支援と、在宅看護に携わる看護職、特に在宅看護専門看護師として果たすべき役割への示唆を得る。

【方法】医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) で「医療的ケア」、「学校」との理論和を行い、PubMed、CINAHL、The Cochrane Library では、操作的定義に従い「(Tracheotomy or Tracheostomy) or Ventilator or Suctioning or “Enteral Nutrition” or “Intermittent Urethral Catheterization」、「Adolescent or Pediatric or Child」、「School」を“and”検索を行った。さらにハンドサーチで得られた文献を加えた。データは児や養育者の思いや要望に関連する箇所をコードとして抽出、3つの視点に沿って分類し、類似したコードを内容として集約、さらに統合しカテゴリーとした。

【結果】18 文献から 125 のコードが抽出された。1. 子ども自身が学校生活に抱く思いや要望には 31 コード中 29 コードが海外文献から抽出された。2. 養育者自身が学校選択に至った理由として【学校の支援体制】、【児と養育者を取り巻く人々の存在】、【養育者の考え】が抽出され、加えて普通学校を選択した養育者からは【養育者が判断した児の能力や意思】のカテゴリーが抽出された。3. 養育者が在学中に抱いた思いや要望は、養育者が学校選択時の理由とは異なるカテゴリーや内容が含まれていた。

【結論】医療的ケアを受ける子どもと養育者は学校選択や学校生活についてさまざまな思いを抱えている。それらを踏まえ予測的視点を持って在宅看護に従事する看護職は学校との連携しながら子どもと養育者の意思決定を支援する役割を担っていることが分かった。特に在宅看護専門看護師として、制度の枠組みに捉われず個別事例への模索を行い、学校や自治体、社会への働きかけを行っていく必要がある。